



【研究者インタビュー】 No.7
研究推進機構長（生命環境科学研究科(獣医)）山手丈
至 教授

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-08-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/00016999

リポジトリ・オープンアクセス研究者インタビュー No.7

研究推進機構長(生命環境科学研究科(獣医)) 山手丈至教授

2019 年 11 月 26 日(火)

図書館ではリポジトリ、オープンアクセスについて広く知っていただくために、研究者インタビューを実施しています。今回はオープンアクセス方針を作成された研究推進機構長の山手先生にお話を伺いました。

図書館：

先生の研究分野について教えてください



山手先生：

獣医学の中での基礎と臨床を繋ぐ病理学という分野で、動物の病気の成り立ちを研究しています。病理解剖して死因を詳細に調べたり、人間の臨床と同様に手術して摘出した病変部位の病理組織検査(生検といいます)を行い、その診断結果を臨床現場に還元することで動物の健康や福祉に貢献しています。このような手法を帰納的病理学といいます。一方、実験動物を使って病(やまい)の成り立ちを研究する実験病理学も進めています。また、動物の病気と人間の病気を比較することで人間の病気の本質を理解する比較病理学も行っています。さらに、マウスやラットといった実験動物を使って、薬の安全性を人間に適応する前に調べる毒性病理学なども研究対象です。

図書館：

最近、先生が執筆された論文について、教員活動情報データベースを通してリポジトリへの登録を依頼していただきましたが、図書館で各出版社のポリシーを調べて、先生から出版社のポリシーに合った原稿のデータを送っていただき、それをリポジトリに登録するという手順になります。

日本獣医学会の *Journal of Veterinary Medical Science* は、出版社版をそのままリポジトリに載せることができますが、ほとんどの出版社は、postprint という accept された段階の原稿(著者最終版)のみ掲載可能になっています。

山手先生：

そういう手順で登録されるのですね。もう少し簡単な仕組みかと思っていました。

図書館：

オープンアクセスになっている論文を、先生ご自身がお使いになるということはあるですか。医学系の雑誌はオープン化が早いと聞いていますが。

山手先生：

Scopus とか Web of Science で検索してサマリーを読んで、自分が必要な論文を利用することが多いです。オープンアクセスかどうかはあまり意識していないですが、今はオープンになっている論文がかなりあるのではないですか。ただ私の研究分野である獣医病理学は非常に専門的なので研究者人口が少なく、かつ、一般の方がアクセスして読むことは、まず、ないと思いますね。

図書館：

オープンアクセスジャーナルに投稿料を払って投稿されることはありますか。

山手先生：

ないです。オープンアクセスの投稿料は高いですね。数十万する。それを見た段階でやめたことはあります。

オープンアクセスジャーナルは、共同研究で何度か出したことはありますが、私自身の研究はほとんどアメリカやイギリスの専門の学会誌に投稿しています。そのような雑誌は、冊子体もありますが、最近は冊子体が無くなる傾向にあります。また、私が投稿している雑誌は、学会員だけが見られるものもあります。

図書館：

大学の年度計画にも「オープンアクセスの推進」が上がっています。オープンアクセス方針の中に「オープンアクセスの現状を常に点検して、公開が適正に行われているかを検証する」という項目がありますので、今後は、学術情報課と研究推進課で協力して、何らかの対応をしていかないといけないのかなと考えています。

山手先生：

研究推進課としては、本学の教員、研究者のパブリケーションを集約して、先生方がどういう研究をされているかを把握し、異なる分野や部局でも領域が似ている研究があれば、その先生同士をマッチングして、大型の外部資金などの研究費を獲得するという方向に持っていきたいと思っています。

ただ論文にすると、知財が取れない。先生方は、特許をとるとか、知財申請するという意識があまり高くない気がしますので、すぐにパブリケーションされる。そうすると大学には知財が残らない。ですから今は知財担当者を中心に各部局を回って、先生方の研究で新しい知見があれば、まず知財として登録できるか相談して、登録できることが分かったら特許出願し、そのあとに学会発表して、パブリケーションしてもらうようお願いしています。

図書館：

オープンアクセス方針は、研究成果を全部公開しようということなので、有料雑誌に投稿するだけでなく、誰もが見えるような環境に公開する手段としてリポジトリに登録していただきたいのですが、なかなか先生方に理解していただけていない状況です。リポジトリに登録されているデータなどは図書館で提供できますので、研究推進課で集約された情報とマッチングして、個別に先生方に依頼するとか、先生方にもっと広報していくこともできるかと思います。実際に登録されないのは、手続きが面倒だと思われるのでしょうか。

山手先生：

面倒というより、仕組みを理解されていないのではないのでしょうか。登録についての様式やフローを作って、論文が出たら、自分の業績が一括して集まるようにする。極端な言い方すれば、データベースに自分が業績等を入れなくても、担当する部署がデータベースに入れてくれるという制度を作れば、大学の教員の負担も減ると思います

オープンアクセスはとても重要です。研究推進課においては、各先生が持っていられる業績を集約していつも見られるよう、先生方にも働きかけたいと思います。

図書館：

山手先生、お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。